第３章　愛知県の取組紹介

愛知県環境局各課室における環境に関する様々な取組の紹介をしています。

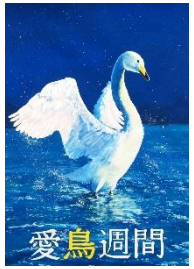
自然環境課

[愛鳥週間用ポスター原画コンクール]

全国の小・中・高校の児童・生徒を対象に、愛鳥週間用ポスターの原画を募集し、ポスター制作過程を通じて野生鳥類についての保護思想を高めるとともに、愛鳥週間（毎年５月１０日～１６日）の普及啓発につとめています。

令和６年度
愛鳥週間用ポスター原画コンクール入賞作品

『林野庁長官賞』



『公益財団法人日本鳥類保護連盟会長賞』

◇愛鳥週間用ポスター原画コンクールに関するＷｅｂページ
https://www.pref.aichi.jp/press-release /r6aicho-kekka.html

[野生生物保護実績発表大会]

学校・団体において行われている野生生物の保護活動の状況及びその実績について発表大会を開催し、保護活動意識の高揚と県民の野生生物に対する保護思想の普及・啓発につとめています。

第 53 回愛知県野生生物保護実績発表大会の様子

◇野生生物保護実績発表大会に関するＷｅｂページ
https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shizen/yaseihappyoutaikai.html

水大気環境課

[水質パトロール隊事業]

水環境への関心を高め、生活排水対策の大切さを理解してもらうため、小中学生を中心としたグループに身近な川の水質や水辺の生きものなどを調べてもらう取組です。

水質パトロールの様子

★水質パトロール隊に参加するには…
水質パトロール隊は、毎年４～７月頃に募集し、１０月頃までに活動していただきます。学校・家族・町内会など、どんなグループでも応募していただけます。詳しくは、愛知県水大気環境課へお問い合わせください。

◇水質パトロール隊に関するＷｅｂページ
https://www.pref.aichi.jp/soshiki/mizutaiki/mizupato-index.html

[三河湾環境再生プロジェクト]

県民、NPO、市町村及び県が一体となって、三河湾の環境再生に向けた取組の機運を高めるため、「三河湾環境再生プロジェクト－よみがえれ！生きものの里“三河湾”－」として「三河湾大感謝祭」や「三河湾環境再生体験会」など様々な事業を展開しています。

三河湾大感謝祭の様子

三河湾環境再生体験会の様子

◇「三河湾環境再生プロジェクト-よみがえれ！生きものの里“三河湾”-」Web ページ
https://kankyojoho.pref.aichi.jp/mikawawanpj/

水大気環境課

[流域モニタリング一斉調査]

身近な水辺に興味を持っていただくため、６月５日（環境の日）から９月末まで県内全域で「流域モニタリング一斉調査」を実施しています。
だれでも手軽にできる調査内容となっています。

【調査方法】
◇応募資格
どなたでも参加できます。ただし、以下の①から③の条件をすべて満たす方。
① 複数名で構成するグループであること。（２名以上での参加が基本、ただし、子供だけの調査は危険ですので、保護者と一緒に参加してください。）
② あいちの水循環再生指標（モニタリングハンドブック）に従って調査を行うこと。
③ 調査地点までの交通費を自己負担できること。
◇調査期間
６月５日（環境の日）から９月末まで
期間内に調査ができない場合は時期をずらして調査することも可能です。
◇調査内容
あいちの水循環再生指標（モニタリングハンドブック）を用いて、身近な水辺（河川、湖沼、海、水路、ため池など）の調査を行います。調査結果はお住まいの市役所または役場へ送付していただきます。
※ あいちの水循環再生指標：「水質」のほか、「水量」「生態系」「水辺の親しみやすさ」などの項目で構成され、川や海などの健康状態を水循環の視点で総合的に判断するための指標

【調査項目】
◇水質調査　：水の汚れ、水の色、濁り、におい　など
◇水量調査　：流速、水深　など
◇生態系調査：水質階級（水生生物調査）、魚の調査、植生調査　など
◇水辺調査　：透視度、ごみの状況、水辺景観　など

流域モニタリング一斉調査の様子

～問合せ先～
お住まいの市町村環境保全関係課室
※調査に係る事故等の責任は、調査者の自己責任とします。

◇流域モニタリング一斉調査に関するＷｅｂページ
https://www.pref.aichi.jp/site/mizujyunkan-tyousa/

資源循環推進課

[３Ｒ促進ポスターコンクール]

３Ｒを促進するためのポスターを公募し、優秀作品を表彰することで、国民一人一人が循環型社会のあり方を考えるきっかけとし、普及啓発に資することを目的に環境省及び３Ｒ活動推進フォーラムの主催で行われます。
※募集方法・・・
市町村広報誌等により募集されます。

令和５年度３Ｒ促進ポスターコンクール

小学生低学年の部　最優秀賞
安城市立安城東部小学校１年生

小学生高学年の部　最優秀賞
刈谷市立住吉小学校５年生

◇３Ｒ活動推進フォーラムのＷｅｂページ
https://www.3r-forum.jp/

地球温暖化対策課

[ストップ温暖化教室]

2007 年度から、地球温暖化防止及びエコライフの実践の普及啓発を図ることを目的とした「ストップ温暖化教室」を、地球温暖化防止活動推進員が指導員となり、県内小学校等で実施しています。

1　小学校高学年向けストップ温暖化教室（2007 年度から実施）

「くらしと電気と温暖化」をテーマに、実験を通じ、家庭における省エネなどの大切さを学び、自分でできることから取り組むことをねらいとしています。

＜実験１＞「火力発電所の仕組みを、たしかめよう。」

実験を通じて、火力発電所の仕組みを知る。

＜実験２＞　「２つの電球をくらべてみよう！！」

白熱電球と LED 電球の消費電力を比較し、どちらが地球に優しい電球なのかを考える。

ストップ温暖化教室の様子

2　小学校中学年向けストップ温暖化教室（2008 年度から実施）

クイズ等を通して、楽しみながら温暖化について学び、日常生活の中でできることを考え、実践することをねらいとしています。

＜教室の展開＞

①電気がなかったころの暮らしの絵を見て、今の生活との違いを考える。
②化石燃料を燃やすと二酸化炭素（CO_2）が出て、 CO_2が増えすぎたことが地球温暖化の原因となっていることを知る。
③地球温暖化が進んで、自然環境の変化など、世界中でいろいろな問題が起きていることを知る。
④テキストの絵を見て、どんなところが地球にやさしいかを探す。

◇ストップ温暖化教室に関するＷｅｂページ
https://www.pref.aichi.jp/soshiki/ondanka/ondankakyoushitsu.html

環境活動推進課

[環境教育の推進]

環境教育を推進するため、教員にとって過度な負担とならずに学習指導要領に沿った授業等の中に環境の視点を盛り込んでいくことができるよう、学校に対する様々な支援を行うとともに、学校が多様な主体と連携・協働した効果的な体験学習を行いやすいよう、環境づくりを推進しています。

もりの学舎（まなびや）で自然を体感！

愛知万博で行われた森のツアーなどの自然体感プログラムを継承する愛知県の環境学習施設もりの学舎(まなびや)では、「森の案内人」と呼ばれるインタープリターが、様々な感覚や想像力を駆使して自然とふれあう多彩なプログラムを行っています。

インタープリターは、自然の素晴らしさやその価値を単に知識として伝えるのではなく、参加者が自然を体験したり発見したりすることをサポートすることで、「自然の価値」や「自然と人との関わり」について一人一人の自主的な気づきや学びを促しています。また、学校の社会見学にも対応しています。

もりの学舎　検索

https://kankyo-gakushu-plaza.pref.aichi..jp/manabiya/

AELネット（あえる）の施設で、気軽に楽しくエコが身につく♪

AELネット(愛知県環境学習施設等連絡協議会)に加盟している県内200以上の施設等では、身近な場所で気軽に楽しく環境を学んでいただけます。各施設が特徴を活かしながら、自然、水環境、ごみなどについての体験や調べ学習といった様々な面から環境学習等の機会をそれぞれ提供するとともに、施設間の連携によって地域における環境学習等の質の向上と機会の拡充に努めています。

AEL ネット　検索

https://ael-stamp.jp

《環境全般》

身近な環境から地球環境まで幅広く環境問題を考え取り組んでいくための環境学習施設です。

実験や工作など体験型の学習ができる施設も多く、楽しみながら学べます！

《３Ｒ、ごみの発生抑制》

ごみのゆくえや分別、リサイクルなどについて、わかりやすく紹介する施設です。

施設・展示の見学や体験学習を通して、生活の中でごみを減らす方法を楽しく学べます！

《自　然》

身近な公園をはじめ、山や海などで様々な自然が楽しめる環境学習施設です。

自然観察会や季節のイベントなどを通して、あいちの自然について学べます！

《水環境》

暮らしの中で目にする機会のない下水や、水をきれいにするしくみ、また水と人との関わりをわかりやすく紹介する施設です。

映像や展示、クイズなどで楽しみながら、水の大切さや汚れた水がどのようにきれいになっていくのかが学べます！

《エネルギー》

地球温暖化やエネルギーについて、見て、ふれて、学んだり、省エネなどの環境に配慮した製品や設備を紹介する施設です。体験型の展示やクイズ、見学などを通して、未来のエネルギーについて学べます！

《図書館》

専門性の高い本から絵本・図鑑まで、様々な環境分野の本を取り揃えていて学ぶことができます。環境に関する絵本の読み聞かせや工作教室を開催する図書館もあり、環境について様々な角度から学べます。

環境学習での連携・協働をお手伝い　Tel 052-908-5150（あいち環境学習プラザ）

環境学習等において実感を伴った学びとするためには、専門的な人材への依頼や実体験のできる教材・施設などの活用が有効です。

そこで、愛知県では、体験等を通した実践的な環境教育を広く実現していくことを目指し、環境学習を受けたい方(学校、地域コミュニティ、企業など)と環境学習を提供できる方をつなぐ環境学習コーディネーターが、講師、教材、場所、施設などの紹介や調整を行っています。

また、「環境教育 協働授業づくりハンドブック」では、社会の課題解決に取り組む事業者・NPOが、専門的な知識や技術等を活かして学校と授業を一緒につくり上げることにより、子どもたちが学んだことを生活や社会に結びつけて行動できるようになることを、事例を通して分かりやすく紹介しています。

あいち協働授業づくり　検索

https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyokatsudo/env-edu-collaboration.html

[グリーン購入の推進]

製品を購入したり、サービスを受けたりする際、まず、その必要性を十分に考えたうえで、環境のことも考え、環境負荷ができるだけ少ないもの（詰め替え商品、地元・旬のもの、環境ラベル商品など）を優先して購入する「グリーン購入」を推進することで、持続可能な社会の構築に寄与することができます。

愛知県では、ものやサービスを買うときに、どんなものが環境にやさしいのかを判断する基準などを示した**「愛知県環境物品等調達方針」**を作成するなど、自らも積極的にグリーン購入を進めています。

例えば、
- 再生材を利用した文房具の購入
- 廃ペットボトルを再生利用した作業服の購入
- 総合評価値※８０以上のコピー用紙の購入
- 低公害車の導入　等

＊ 総合評価値とは、コピー用紙などで、どれだけ古紙が使われているか、ということだけで環境にやさしいかどうかを判断するのではなく、他に、原料に間伐材が使われている割合や白色度（紙の白さ）などについても考え、それぞれを点数化し、合計点（総合評価値）が 80 以上のものを「環境にやさしい」としています。

◇グリーン購入に関するＷｅｂページ
https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyokatsudo/0000009402.html

環境政策課

[ESD ユネスコ世界会議の開催]

2014 年（平成 26 年）11 月 10 日から 12 日まで、国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）及び日本政府の主催で、「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」が名古屋国際会議場において開催され、153 カ国・地域から 76 名の閣僚級を始め政府代表や教育関係者などを中心に 1,000 名以上の ESD 関係者が集まりました。

皇太子同妃両殿下が御臨席された開会全体会合を皮切りに、4 回の全体会合、34 のワークショップ、25 のサイドイベントが催されるとともに、多様なステークホルダーによる取組がブース展示されました。世界会議では、「国連 ESD の 10 年」を振り返るとともに、2015　年以降の ESD の推進方策として 5 つの優先行動分野が示された「ESD に関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」を今後推進していくための議論が行われました。

全体会合の様子

この会議の最終日には、GAP を後押しし、2015 年以降に各国の政策に ESD を取り入れることを呼びかける「あいち・なごや宣言」が採択され、この宣言は翌月（12 月）に国連総会で決議されました。閉会全体会合では、これまでの 10 年間の成果や本会議の審議を踏まえ、「あいち・なごや宣言」が採択されました。

【あいち・なごや宣言（要約）】

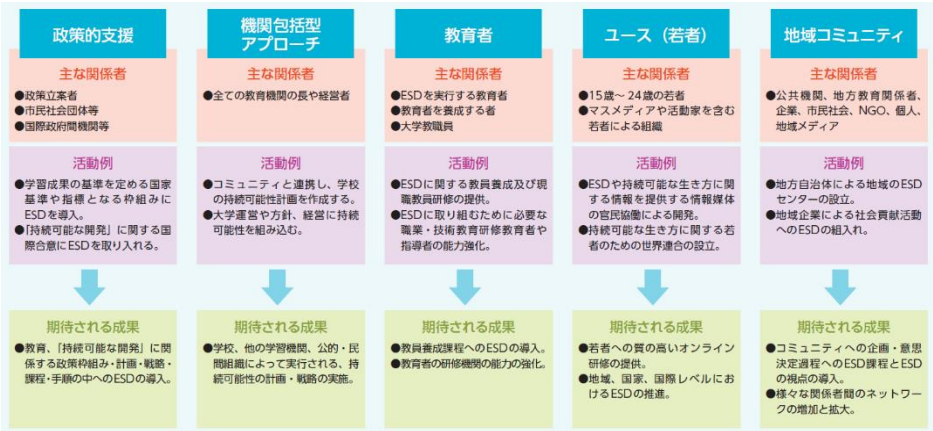
〇2014 年 11 月 10 日から 12 日まで愛知県名古屋市で開催された「ESD に関するユネスコ世界会議」の参加者である我々は、持続可能な開発に関する経済、社会、環境分野のバランスの取れた統合ができるようにこの宣言を採択し、持続可能な開発のため教育（ESD）の更なる強化と拡大のための緊急の行動を求める。
〇この宣言は、国連 ESD の 10 年（2005～2014）の成果、ESD ユネスコ世界会議及び岡山市で開催されたステークホルダーの主たる会合、さらにその他の関連イベントや協議プロセスの審議に基づく。
〇我々は ESD ユネスコ世界会議の開催国である日本政府に心から感謝する。

1　国連 ESD の 10 年の多大なる功績を祝し、
2　国連 ESD の 10 年の実施に積極的に参加した多くの政府、国連機関、非政府組織、教育機関・組織、学校の教育者と学習者、地域と現場、ユース、科学コミュニティ、学術界、その他のステークホルダー、同 10 年の主導機関であるユネスコに感謝し、
3　リオ＋20 の成果文書「我々が望む未来」に含まれる ESD の国際的なコミットメントを想起し、
4　グローバル・アクション・プログラム（GAP）が、教育、訓練、学習の全てのレベル及び分野において ESD の行動の導入、拡大を目指していることに留意し、
5　ESD を持続可能な開発の実施のための極めて重要な方法として再確認し、
6　包括的な質の高い教育と生涯学習に不可欠で、変化させる力を持つ要素として、また持続可能な開発を可能にするものとして ESD の国際的な認知の高まりを歓迎し、
7　ユネスコ/日本 ESD 賞の創設を評価し、

我々参加者は、
8　学習者自身及び学習者が暮らす社会を変容させる力を与える ESD の可能性を重要視し、
9　ESD は、先進国と発展途上国の両方が貧困撲滅、不平等の縮小、環境保護、経済成長のための努力の強化に取り組む機会であり、責任であることを強調し、
10　ESD の実践は、文化、平和、伝統知、先住民の英知、人権、男女平等、民主主義、社会主義のような普遍的原則とともに、地元、国内、地域、世界の文脈を充分に考慮すべきであることを強調し、
11　関係する全てのステークホルダーが表明した ESD への参加に感謝し、
12　包括的な質の高い教育及び生涯学習をとおして、GAP 開始のモメンタムの構築及び維持を約束し、
13　関係する全てのステークホルダーが、相乗的な方法で、a）明確なゴールを設定し、b）活動を開発、支援、実施し、c）経験を共有するためのプラットフォームを構築し、d）GAP の五つの優先行動分野※におけるモニタリング及び評価の方法を強化するよう求め、
14　全ての関係するステークホルダーが、ユースをキーとなるステークホルダーとして尊重しながら、部門や分野の境界を越えて共同的で可変的な知識の生産、普及、活用、イノベーションの促進に従事するよう促進し、

15　ユネスコ加盟国の政府に以下のような更なる取組を求める。
a）　教育、訓練、及び持続可能な開発政策への ESD の統合を強化し、教育、訓練、職能開発が充分に ESD を取り入れることを確保し、
b）　政策を行動に移すために実質的な資源を配分、結集し、
c）第一に ESD を教育の目標として残し、第二に世界会議（2014）の成果を世界教育フォーラム（2015）において考慮されるよう保証することでポスト 2015 年アジェンダ及びそのフォローアッププロセスに ESD を反映、強化させる。
16　ユネスコ事務局長に以下のことを求める。
a）　政府、他の国連機関、開発パートナー、民間企業、市民社会と協力し、ESD のグローバルリーダーシップを提供し、政策の共同作用を支援し、ESD に関するコミュニケーションを円滑化し、
b）　ESD を実施するための新たなモメンタムを構築し、パートナーシップを活用し、ユネスコスクール、ユネスコチェア、ユネスコが支援するセンター、生物圏保存地域及び世界遺産の国際ネットワークなどのネットワークを活用、動員し、
c）　ESD の資金を含む適切な方策を保証する重要性を支援する。

※GAP における 5 つの優先行動分野



（出典）環境省

[ESD あいち・なごや子ども会議の開催]

会議開催に併せて、県内の子どもたちが中心となり、持続可能な社会づくりについて学び、話し合う子ども会議を開催しました。子ども会議には、県内 65 校から 121 名が参加し、エクスカーション（現地学習）、グループ討議を経て、全体会議によりとりまとめを行いました。このとりまとめた内容については、子ども会議からのメッセージとして、ESD ユネスコ世界会議の閉会全体会合において発表しました。